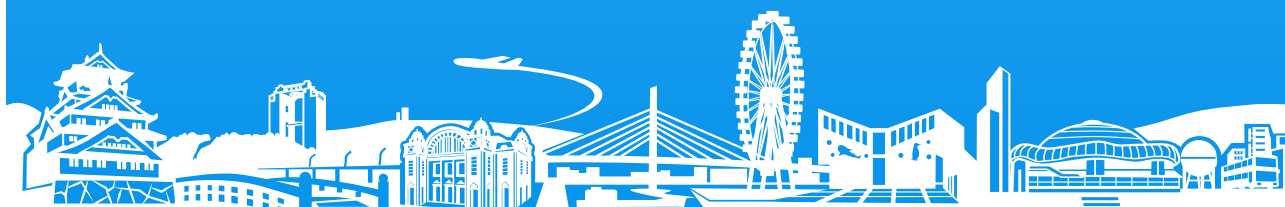


4

広域的観点から推進すべき取組



4. 広域的観点から推進すべき取組

4.1 広域的観点から推進すべき取組の必要性

ランドデザインの推進に向けては、交通ネットワークの強化やネットワークを活かしたまちづくりによる都市軸の強化など、広域的観点から、めざすべき都市構造の形成に向けた取組を推進していくことが必要であり、行政単位にとらわれず、まちづくりを推進していくことが重要です。

大阪府は、比較的面積規模の小さい市町村で構成されていることから、市町村間の広域的な連携によるスケールメリットを活かした取組が効果的と考えられます。

また、高密度な交通ネットワークを中心に、高い交通利便性を有するとともに、多様な都市機能が集積した市街地が連坦していることから、行政界を越えて、広域的な観点で市町村等が連携した取組を推進していくことが必要です。

さらに、人口動向をはじめとした社会情勢の変化や、社会トレンドに起因する課題等への対応は、複数市町村に共通していることから、課題解決に向けた取組の考え方等を示すことが、地域のまちづくりの推進につながります。

以上を踏まえ、本章では、広域的観点から推進すべき取組として、「市町村の行政界を越えて連携する取組」と「市町村の共通課題解決に向けた取組」に着目し、その考え方や具体的方策をまとめています。

(1) 市町村の行政界を越えて連携する取組

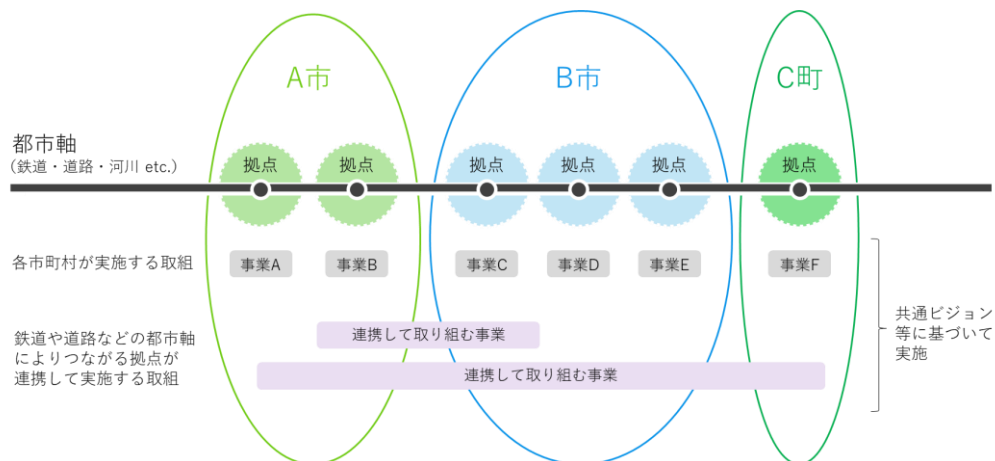
マルチハブ&ネットワーク型都市構造の実現に向けて、各市町村が個別に進める拠点づくりだけでなく、連坦する市街地のスケールメリットや高密度な交通ネットワークを活かしたまちづくりに取り組む必要があります。連携して取組を推進する際には、関係主体で共通ビジョン等を策定し、それに基づいて市町村間をつなぐ鉄道・道路・河川などの都市軸の強化や、市町村が連携して取組を実施します。

このうち「鉄道沿線まちづくり」は、都市軸の強化を図る観点から、複数市町村をつなぎ、沿線地域の個性や強みを活かしたまちづくりに取り組むものです。

また、「地域資源を活かした広域連携のまちづくり」は府域の特徴である、都市に近接した周辺山系などの地域資源の魅力を最大限発揮するため、複数市町村が連携して地域の活性化や魅力発信に取り組むものです。実際に進められている取組には、大阪広域ベイエリアのまちづくり、河川空間を活かした魅力あるまちづくり、周辺山系の自然資源等を活用したまちづくり等があります。

今後、関係者と連携を図りながら、新たな取組を推進していきます。

【市町村の行政界を越えて連携する取組イメージ】



(2) 市町村の共通課題解決に向けた取組

各市町村が抱える課題のうち人口減少・少子高齢化を背景とするものは、複数市町村に共通する課題である場合が多いと考えられます。このような課題の解決に向けて、市町村が連携して取り組むことは非常に有効です。

今後、関係者と連携を図りながら、新たな取組を推進していきます。

【取組例】

大規模未利用地の有効活用、既成市街地のリノベーション（再々開発事業等）

4.2 広域的観点から推進すべき取組の概要

(1) 鉄道沿線まちづくり

グランドデザインの推進に向けては、鉄道事業者や市町村が沿線において独自に進める取組のほか、放射・環状に広がる都市軸の強化を図る観点から、複数市町村等が連携し、多様な主体の参画促進による持続的なまちづくりの実現をめざした取組を進めることが考えられます。この指針では、鉄道事業者と複数市町村等が連携した取組を「鉄道沿線まちづくり」として、その内容について説明します。

① 目的・概要

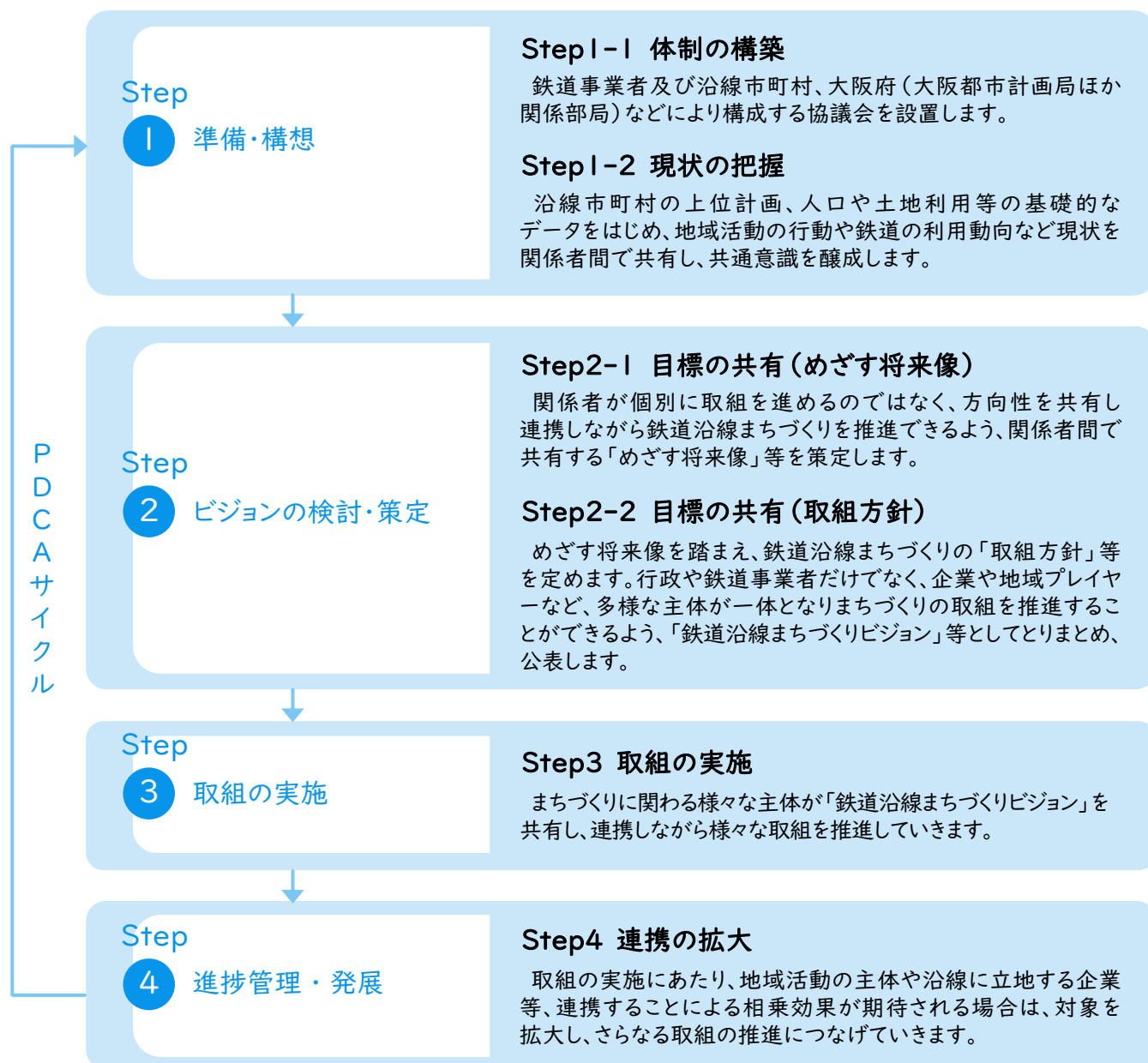
鉄道沿線まちづくりにおいては、マルチハブ＆ネットワーク型都市構造の実現に向けて、都心部の拠点開発効果を沿線に波及させていくことや、ライフスタイルの多様化を踏まえ、多様な働き方・暮らし方を選択できる沿線を実現していくことが重要です。

このことから、沿線全体を一体的にとらえ、沿線地域の個性や強みを活かした特色ある駅周辺エリアや魅力ある生活圏を形成し、相互に連携する沿線をめざします。そのためには、沿線市町村や鉄道事業者が将来像を検討・共有し、方向性を同じくし、連携しながら沿線まちづくりを推進します。

② 取組の進め方

鉄道事業者、複数の沿線市町村など多様な主体が一体となって、次のステップ図に示すとおり、各プロセスを通じて、鉄道沿線まちづくりに取り組みます。

【鉄道沿線まちづくりの進め方（ステップ図）】



③ 取組の推進体制

鉄道事業者及び市町村の意向を踏まえ、ランドデザインの推進に資する路線については、協議会の設置等体制を整備し、関係者間で鉄道沿線まちづくりの方向性を共有し、多様な主体が一体となり具体的方策の実施につなげていきます。

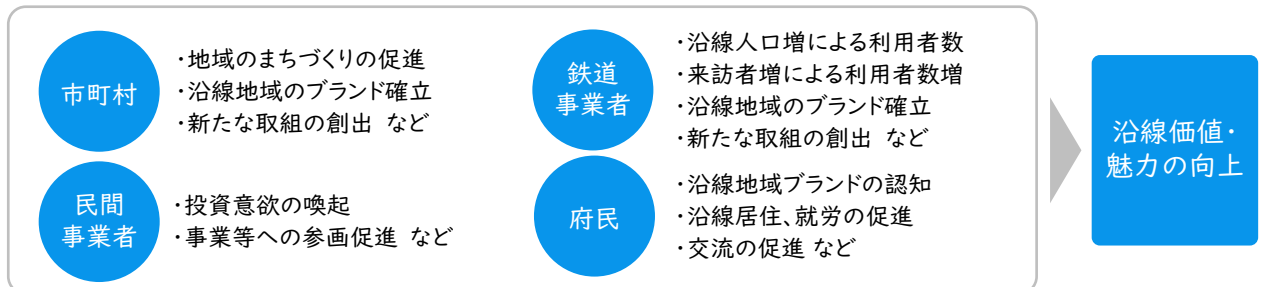
【個別路線の鉄道沿線まちづくり協議会】

〈構成〉	鉄道事業者	沿線市町村	大阪都市計画局	関係部局等
〈テーマ〉	① 鉄道沿線まちづくりの方針（鉄道沿線まちづくりビジョン等）のとりまとめ ② 各種施策・事業の検討・調整			
〈役割分担〉	鉄道事業者	鉄道沿線まちづくり方策の実施・推進		
	沿線市町村	鉄道沿線まちづくり方策の実施・推進		
	大阪都市計画局	鉄道沿線まちづくり方策の全体コーディネート		
	関係部局等	地域のまちづくりの支援、インフラ事業等の実施主体、地域活動の主体等		

④ 取組による効果

鉄道沿線まちづくりビジョンを共有した上で、多様な主体が連携し、まちづくりの取組を推進することにより、市町村、鉄道事業者、民間事業者、府民等にとって様々な効果が期待できます。その効果を関係者が享受しながら、沿線価値・魅力の向上につなげていきます。

【鉄道沿線まちづくりの取組効果】



参考：鉄道事業者との情報共有

鉄道事業者との連携を強化するため、鉄道沿線まちづくり推進会議を設置し、鉄道沿線まちづくりの推進に向けた取組等に関する情報提供及び意見交換等を行っています。

【鉄道沿線まちづくり推進会議】

〈構成〉	鉄道事業者	大阪府	大阪市	堺市
〈テーマ〉	① グランドデザインの推進に向けた取組の共有 ② 鉄道沿線まちづくりに係る取組の共有 ③ その他、鉄道沿線まちづくりの推進に関すること			

1) JR学研都市線沿線まちづくり

① 概要・目的

JR学研都市線の沿線自治体（枚方市、交野市、寝屋川市、四條畷市、大東市、東大阪市）、JR西日本とともに、大阪全体のまちづくりの方向性を示す「大阪のまちづくりグランドデザイン」に掲げるマルチハブ&ネットワーク型都市構造の実現に向けて、多様な主体の参画による持続的なまちづくりを通じて沿線地域の活性化や課題解決を図るために、JR学研都市線沿線まちづくり協議会を設立し、沿線一体のまちづくりに取り組んでいます。

② 取組の推進体制

JR西日本や沿線市（枚方市、交野市、寝屋川市、四條畷市、大東市及び東大阪市）の意向などを踏まえ、多様な主体の参画による持続的なまちづくりの実現や沿線地域のブランドイメージの向上等を目的に、2023年8月にJR学研都市線沿線まちづくり協議会を設置し、大阪都市計画局が事務局を務めています。

2025年3月には、同協議会において、各沿線自治体やJR西日本をつなぐよりどころとして「JR学研都市線沿線まちづくり未来ビジョン」をとりまとめました。今後、この未来ビジョンを出発点として、地域住民や事業者等のみなさまとともに、共創による様々な取組を創出し積み重ねていくことで、住みたい・働きたい・訪れたいまちづくりを実現していきます。



JR学研都市線沿線まちづくり未来ビジョン



協議会の様子

③ 取組の内容

《JR学研都市線沿線まちづくり未来ビジョン》

JR学研都市線の沿線自治体とJR西日本とともに、「住む」「働く」「訪れる」をテーマに理想の沿線像を思い描きながら、これからの沿線まちづくりについてディスカッションを重ね、その中で導き出した未来のまちの姿やキーワードなど、共有した沿線まちづくりの方向性をとりまとめました。

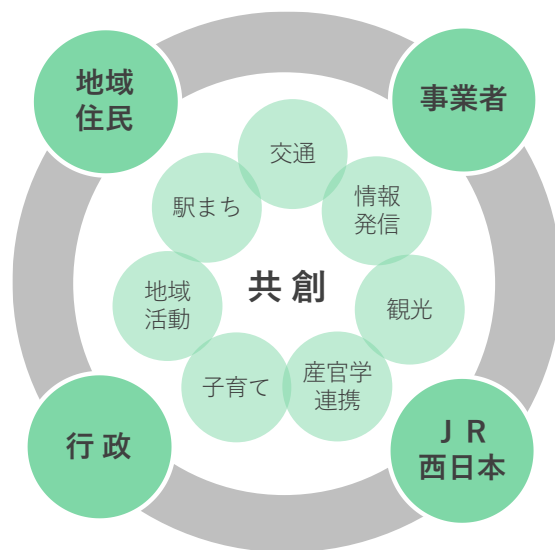


導き出した未来ビジョン

④ 取組の効果

未来ビジョンは、沿線自治体とJR西日本が沿線まちづくりの方向性について共通認識を持ちながら、同じ視点で、共創による具体的取組を創出していくためのよりどころとなります。

今後は、未来ビジョンを出発点として、地域住民や事業者等へ共創の輪を広げながら、ゆるやかな連携のもと持続的に、スモールスタートでできることから段階的に検討や試行を進め、共創による様々な具体的取組を創出し積み重ねていきます。



地域住民×事業者×行政×JR西日本の共創によるまちづくり

(2) 地域資源を活かした広域連携のまちづくり

1) 大阪広域ベイエリアのまちづくり

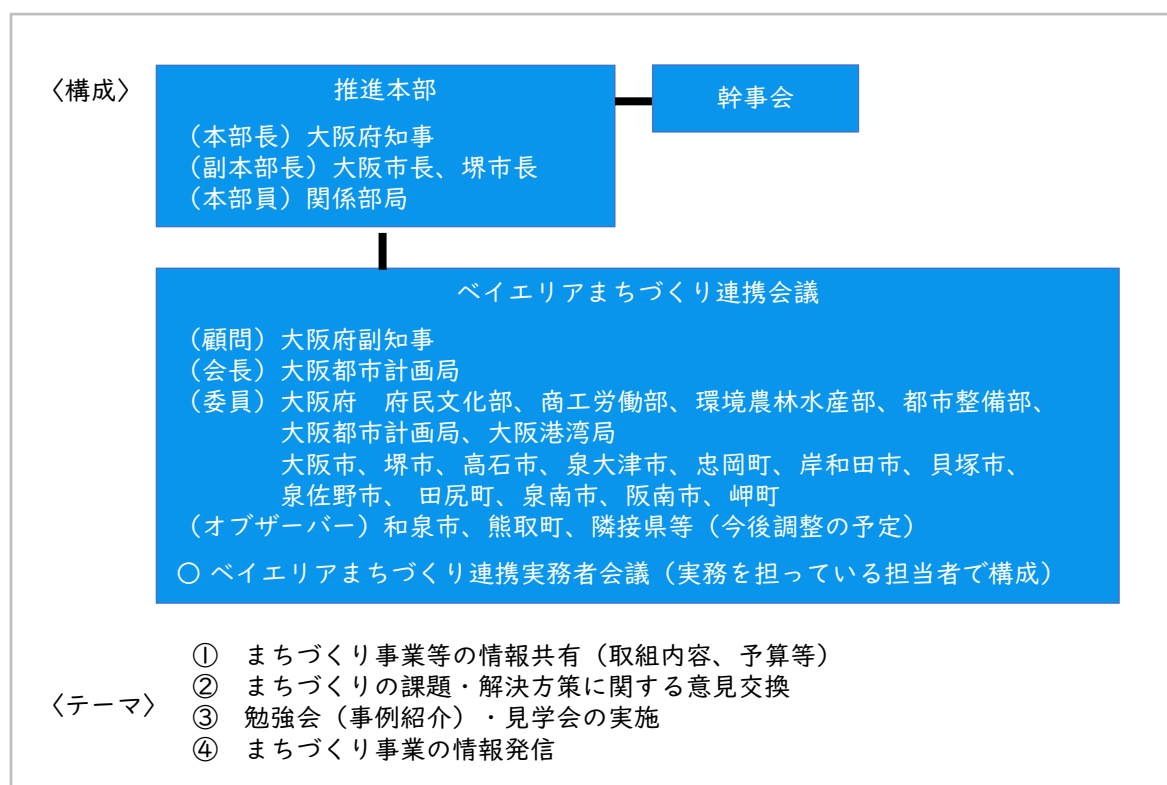
① 概要・目的

大阪・関西万博等のインパクトや泉州地域沿岸部の様々な地域資源を最大限に活用しながら、ベイエリア全体を活性化し、更なる大阪・関西の発展につなげるため、ベイエリアにおけるまちづくりを推進します。

② 取組の推進体制

大阪広域ベイエリアまちづくりビジョン（案）に基づき、大阪府及び関係市町等が連携しながら、様々な地域資源を最大限活用することで、ベイエリアの活性化を図ります。

【大阪広域ベイエリアまちづくり推進本部会議】



③ 取組の内容

2025年大阪・関西万博も見据えつつ泉州地域沿岸部の様々な地域を活用し、ベイエリア全体の活性化に向けた取組を進めるため、自転車による広域サイクル連携を図ります。

《WAKAYAMA800モバイルスタンプラリー7th season

～和歌山・大阪・京都・奈良 周遊特別版スタンプラリー～

【概要】

和歌山県と泉州地域の13市町等が連携し、地域資源や観光資源を活用したデジタルスタンプラリーの実施

【連携市町等】

- ・ 府県：和歌山県、京都府、奈良県、大阪府（大阪都市計画局）
- ・ 府内市町：大阪市、堺市、高石市、泉大津市、忠岡町、岸和田市、貝塚市、泉佐野市、田尻町、泉南市、阪南市、岬町、和泉市、熊取町

【和歌山・大阪・京都・奈良 周遊特別版スタンプラリーチラシ】

和歌山・大阪・京都・奈良 周遊特別版スタンプラリー 2024.9.1⑨-11.30⑨

WAKAYAMA 800 モバイルスタンプラリー 7th season

和歌山・大阪・京都・奈良のいろんな場所にあるスタンプを集めて応募すると抽選で賞品が当たる!!

スタンプ数	抽選に 当選した方
40スタンプ賞 (和歌山10、大阪10、京都10、奈良10)	5名 TREK ワイヤレスボトル
30スタンプ賞 (和歌山10、大阪10、京都10、奈良10)	10名 熊野牛
20スタンプ賞 (和歌山10、大阪10、京都10、奈良10)	15名 和歌山産特産品
10スタンプ賞 (和歌山10、大阪10、京都10、奈良10)	30名 和歌山産特産品

サイクリストに優しい宿 ペア宿泊券 (1泊2名用)

通学版モバイルスタンプラリーも開催中!!

お問い合わせ：和歌山県 地域振興課 観光部 観光課 TEL:073-441-2776 (土・日・祝日・年末年始を除く)

※本チラシは、和歌山県・大阪府・京都府・奈良県・泉南市・田尻町・泉佐野市・岸和田市・貝塚市・高石市・泉大津市・忠岡町・和泉市・熊取町・岬町・阪南市・堺市・大阪市・大阪都市計画局の共同で発行しています。

チェックスポットマップ

和歌山エリア

大阪エリア

京都エリア

奈良エリア

和歌山県サイクリング総合サイト <https://wakayama800.jp/>

④ 取組の効果

各地域の特徴を活かしながら、それぞれが持つ多様な地域資源やストックを“みがく”とともに、“つなぐ”、“広げる”取組を進め、個々の取組の相乗効果を高めることで、大阪広域ベイエリア全体の魅力を高めます。

2) 河川空間を活かした魅力あるまちづくり

○淀川沿川のまちづくり

① 目的・概要

河川敷や船着場などに加え、その沿川の歴史・文化資源など、沿川市町村が有する個性豊かなストックを活かし、多様な主体と連携しながら取組を進めることで、魅力あるまちづくりを推進します。また、近年の気候変動による災害の頻発化や地震等の有事にも速やかに対応できる住みやすいまちづくりを推進します。

◆ 水上交通結節機能の強化や交流空間の形成

- ・淀川における舟運と連携した沿川地域の魅力向上
- ・沿川の歴史・文化資源など、地域の魅力を感じることができるサイクルツーリズム等の取組の推進
- ・かわまちづくり制度等を活用した舟運の活性化や水辺空間の整備等による沿川のにぎわいづくり

◆ 防災・減災の視点を兼ね備えたまちづくり

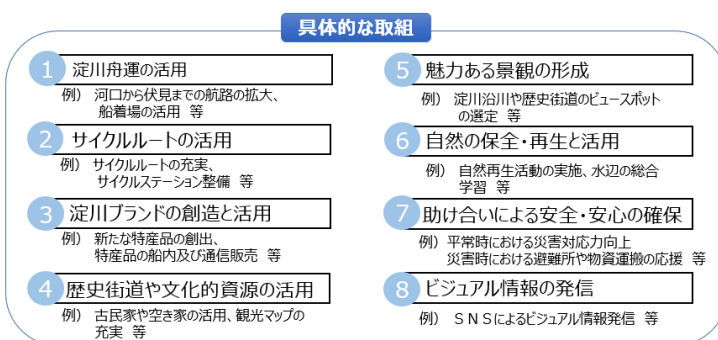
- ・淀川大堰閘門の整備による防災力の向上と舟運の活性化・沿川のにぎわいの創出

◆ 近隣府県・市町村と連携した沿川の魅力創造 など

② 取組の推進体制

「淀川沿川まちづくりプラットフォーム」は、八軒家浜から枚方までの舟運復活を契機に、沿川の将来像を共有することを目的とし、沿川のまちづくり団体や舟運事業者等で2017年8月に発足し、大阪都市計画局が事務局を務めています。

2018年3月には、「淀川沿川まちづくりプラットフォーム」において、淀川沿川の地域資源を活かし、その価値を高め、広域的な視点でつなぐことで、魅力あふれる都市空間を創造し、まちづくりを推進することを基本目標とする「淀川沿川広域連携型まちづくり戦略」をとりまとめ、この戦略に基づき定期的に意見交換や連携事業を行っています。



戦略における8つの取組



意見交換の様子

③ 取組の内容

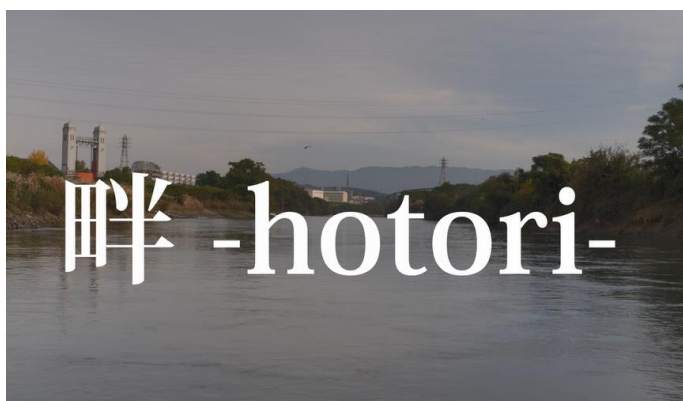
毎年度、意見交換を行うとともに、これまで、連携事業として、淀川沿川の魅力を発信するため、川柳やフォト・スケッチコンテストの開催や、プロモーションビデオ「畔」の制作に加え、「淀川広域観光資源マップ」等を作成しています。

さらに、沿川の見どころを巡っていただくために、「淀川周遊スタンプラリー」や「大阪京都淀川周遊サイクルディスカバリー」等を実施しています。

【淀川広域観光資源マップ】



【プロモーションビデオ「畔」「畔II」】



「畔」



「畔II」



【淀川周遊サイクルディスカバリー】



○大和川沿川のまちづくり

① 目的・概要

沿川の歴史・文化資源など、沿川市町村が有する個性豊かなストックを活かし、多様な主体と連携しながら、取組を進めることで魅力あるまちづくりを推進します。

◆ 交流空間の形成

・沿川の歴史・文化資源など、地域の魅力を感じることができるサイクルツーリズム等の取組の推進

◆ 隣接府県・市町村と連携した沿川の魅力創造

② 取組の推進体制

大和川沿川の市町が有する地域資源を活かし、自転車で地域をめぐりながら、沿川の魅力を伝える取組等を国・沿川市町・府県等と連携して推進します。

【大和川広域自転車利用の促進に向けた流域自治体会議】

〈構成〉	大阪府	大和川沿川自治体（13市町） 大阪府内：大阪市、堺市、八尾市、柏原市、松原市、羽曳野市、 藤井寺市 奈良県内：大和郡山市、平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町、王寺町
	奈良県	
	近畿地方整備局 大和川河川事務所（協力）	
〈テーマ〉	「大和川サイクル月間」の実施	
〈役割分担〉	大阪府 奈良県	大和川沿川の地域の魅力や資源をつなげ、府県を超えた回遊性向上による賑わいの創出
	大和川沿川自治体	かわまちづくり計画や河川空間のオープン化をはじめ、イベント等を連携させた賑わいの創出

《大和川サイクル月間》

〔概要〕

- ①期間中に自転車で地域のイベントや見どころを周遊する大和川周遊サイクル
スタンプラリーの実施
- ②期間中にエリア内で開催されるイベントとの連携

隣接府県・市町村及び民間事業者と連携した取組を進めることで、沿川の魅力が創造されます。

- ・自治体内の周遊に留まらず、自治体・府県を越えた広域的な周遊につながります。
- ・企業協賛（スタンプラリーの景品）を通じて民間事業者と連携することができます。
- ・ウェブサイト等を活用した協賛品やイベントのPRにつながります。

[illegible][illegible]

3) 自転車を活用したまちづくり

① 概要・目的

自転車で地域を巡り、サイクルルート沿線の魅力を楽しむなど、地域資源の活用の観点から、近隣府県や市町村などの広域連携によるまちづくりを推進します。

- ◆「淡路島一周（アワイチ）」、「琵琶湖一周（ビワイチ）」、「京奈和自転車道」等の関西各地域のサイクルルートと連携した広域ルートの設定
- ◆ 自転車を活用した魅力的な地域資源の周遊コースの設定
- ◆ アプリの活用等による情報発信

② 取組の推進体制

関西各地域で取組が進められている「淡路島一周（アワイチ）」、「琵琶湖一周（ビワイチ）」、「京奈和自転車道」等の各ルートと連携させ、大阪湾をはじめ、関西一円の豊かな自然や世界遺産などの歴史・文化資源を、誰もが楽しめるようにすることにより地域の魅力を高めることで、自転車を活用した広域連携によるにぎわい創出など地域活性化を図り、まちづくりにつなげます。

【関西一円の広域サイクルルート形成に向けた連携会議】

〈構成〉	府県・政令市 (関西2府4県)			
	府内市町村		民間団体など	庁内関係部局
〈テーマ〉	関西各地域のサイクルルートと連携した広域サイクルルートの形成			

③ 取組の内容

《関西一円の広域サイクルルート形成に向けた連携会議》

各団体における自転車に関する取組の情報共有と意見交換を目的に開催しています。

【連携会議】



《社会実験》

地域が持つストックのポテンシャルを最大限に活かし、府県域にとらわれず広域的に連携させるまちづくりの手法として、平成30年度から令和2年度にかけて「広域サイクルルート連携事業」として社会実験を実施しました。

【社会実験 試走会（岬町）】



【社会実験 試走会（八幡市）】



《サイクリングマップ》

サイクリングの専門家がお勧めする18のモデルコースや地域のお勧めスポット、サイクルステーションなどを掲載したサイクリングマップを作成し、ウェブサイトやアプリを活用して、サイクリングコースの魅力を発信しています。

利用者の利便性向上と情報発信を図ることを目的に、サイクリングマップに掲載されているサイクリングコース等の情報はサイクリングナビアプリにも掲載しています。

【アプリ
（自転車NAVITIME）】



【サイクリングマップ】



《民間企業からの寄附による財源確保》

大阪府まち・ひと・しごと創生総合戦略における広域サイクルルート連携事業として、企業版ふるさと納税制度を活用して取組を進めています。（令和6年度までの実績：26社）

④ 取組の効果

- ・市町村等が実施するサイクリングイベントと連携することができます。
- ・寄附や協賛を通じて民間企業等と連携することができます。
- ・ウェブサイト等を活用した寄附企業の紹介や協賛品のPRにつながります。

4) 周辺山系の自然資源等を活用したまちづくり

① 概要・目的

周辺山系の自然資源等を活用したまちづくりは、都市との近接性を活かし、身近にみどりを感じられる山や森林、自然歩道などの自然資源等を最大限に活用しながら、自然にふれあい、学び、体験できる場を創出するなど、周辺山系におけるまちづくりを推進します。

② 取組の推進体制

生駒山系において、民間事業者と山系10市町、奈良県、大阪府からなる「生駒山系の歴史文化遺産を活かしたまちづくり」に関する連携会議を設置しています。

この連携会議は、生駒山系のみどりや親水空間、歴史・文化遺産などをつなぎ、「山」から「川」にいたる魅力あふれる広域連携によるまちづくりを推進するため、意見交換や情報共有を実施することを目的に設置されています。

【連携会議の様子】



【「生駒山系の歴史文化遺産を活かしたまちづくり」に関する連携会議】

〈構成〉	民間事業者	山系市町	奈良県	大阪府
〈取組内容〉	① 「生駒山系(南部)の歴史・文化遺産をめぐるルートマップ」を作成 ② 信貴山サイクルロゲイニング「飯盛山歴史山歩」の実施を支援 ③ 山系市町における意見交換や情報共有・相互発信 ※山系市町…枚方市、交野市、大東市、四條畷市、東大阪市、 八尾市、柏原市、生駒市、平群町、三郷町			

③ 取組の内容

《生駒山系(南部)の歴史・文化遺産をめぐるルートマップ》

生駒山系南部(大阪府八尾市、柏原市、奈良県三郷町、平群町)において、歴史・文化遺産を広域に周遊できるルートマップを作成しました。



《信貴山サイクルロゲイニング》

「サイクルロゲイニング」とは、オリエンテーリングに「自転車」、「スコア争い」、「写真」、「SNS」を組み合わせたアウトドアスポーツです。

生駒山系南部の自然環境や歴史・文化的資産等の地域資源を広域に巡ることで、参加者に地域の魅力を感じてもらうとともに、まちのにぎわいや交流を促進することを趣旨とします。

事業者、八尾市、柏原市、平群町、三郷町、大阪府、奈良県が連携して実施しており、エリア内の歴史遺産やおすすめスポットなどをロゲイニングポイント、ボーナスポイントに設定し、自転車でめぐります。



《飯盛山歴史山歩》

飯盛山周辺にある歴史資源や自然を巡りながら地域の歴史を学ぶことで地域のすばらしさを知っていただき、地域を訪れるきっかけづくりやまちの活性化に繋げることを趣旨とします。

令和3年10月の飯盛城跡の国史跡指定を契機に、大東市、四條畷市にまたがる飯盛城跡やその周辺の活性化をめざし、大東市、四條畷市、大阪府で実施する公民連携の取組として、事業者が主催する、地域の歴史・魅力を発見する、歴史ガイド付きのハイキングです。



《構成市町の連携》

平群町ゆかりの松永久秀と大東市ゆかりの三好長慶がかかわりが深いことから、連携会議を契機に、平群町で開催される「へぐり時代祭り」に大東市が出展し、新たな連携が生まれました。

【「へぐり時代祭り」の様子】



④ 取組の効果

複数市町の広域連携により地域資源をパッケージングすることによる魅力向上や、情報発信媒体を増やすことによる効果的な情報発信等、取組の強化ができます。